

令和6年度 地域情報化アドバイザープロフィール

ふりがな	やまだ まさひこ	
氏名	山田 雅彦	
所属・役職	一般財団法人 世界遺産白川郷合掌造り保存財団 課長補佐	
活動拠点	飛騨地域内	
略歴	<p>1999年4月 高山市役所入庁 商工課 伝統産業担当</p> <p>2002年4月 福祉課 生活保護・療育担当</p> <p>2003年4月 宮村役場福祉住民課（市町村合併前人事交流）国保等担当</p> <p>2005年2月 税務課 税制担当</p> <p>2008年4月 電通(株)本社へ研修派遣</p> <p>2009年4月 企画課 統計調査、地籍調査、広報等担当</p> <p>2012年4月 総務課 情報システム、選挙、災害対応等担当</p> <p>2017年4月 広報情報課 情報システム、選挙、災害対応等担当</p> <p>2020年4月 行政経営課 指定管理、公共施設管理、ICT活用、選挙、災害対応等担当</p> <p>2022年4月 行政経営課 デジタル推進担当監</p> <p>2023年3月 高山市役所退職</p> <p>2023年4月 一般財団法人 世界遺産白川郷合掌造り保存財団 勤務（現在）</p>	
地域情報化の 専門分野・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・産官学連携協定締結に至る関係機関や内部調整、その後の事業推進 ・ICT利活用における庁内合意形成と広報活動 ・AIカメラによる人流量等の計測と集積データの利活用 ・ICT利活用事業への地元関係団体との調整と参加促進（ワークショップの開催など） 	
専門分野	観光 ICT活用広報 AI活用	
自治体向けメッセージ	<p>どの自治体にも解決したくても着手できていない課題はきっとありますよね。少数職員、小規模予算の自治体こそ、ICTや他団体に頼ってみるとよいのでは？</p> <p>予算を確保していなくても、信念とやる気により、第一歩を必ず踏み出せます。無償トライアルから本格運用への展開を見据えた庁内の理解も得ながらの事業展開のコツと、報道発表の勘所などについて支援させていただきます。</p>	
関連サイト	事業の広報にあたっては、電通時代の経験や広報担当者のノウハウにより視覚的な工夫、タイミングの調整などに留意して行うことで多数の掲載実績があります。	

		<p>【高山市ホームページ 産官学連携協定の取組み紹介】 https://www.city.takayama.lg.jp/1005232/1013124.html</p> <p>【名大生が街づくりに取り組む 朝日新聞記事】 https://www.asahi.com/articles/ASPDD01PGPD80HGB00X.html</p> <p>【NEC ソリューションイノベータ(株)ホームページ 産官学連携協定】 https://www.nec-solutioninnovators.co.jp/sl/fieldanalyst/fa_01/case-takayama.html</p> <p>【岐阜県デジタル推進課ホームページ 高山市の産官学連携協定の取組み紹介】 https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/278824.pdf</p> <p>【飛騨高山学会での名大生による取組み発表資料】 https://www.renkei-center.jp/pdf/society/slidedata/20211204-12.pdf https://www.renkei-center.jp/pdf/society/slidedata/20211204-11.pdf</p> <p>【デジタル行政 高山市のデジタル関係取組みのインタビュー記事】 https://www.digital-gyosei.com/post/interview-takayama-okuyami1/</p> <p>【科研費ホームページ 画像認識技術による観光客属性データの収集・分析と観光施策への利活用】 https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-20K12545/</p> <p>【ジチタイワークス LoGo フォーム活用事例紹介】 https://jichitai.works/article/details/791</p> <p>【市民課混雑状況お知らせサイト 毎日新聞記事】 https://mainichi.jp/articles/20210330/ddl/k21/010/166000c</p> <p>【RPA 導入事例紹介フライヤー】 https://www.ncxx-sl.co.jp/service/TakayamashiEzAvaterflyer.pdf</p> <p>【フィンテックが生み出す地域のお金の好循環 -地域限定電子通貨さるぼぼコインの成果と政策への活かし方-】 https://scirex.grips.ac.jp/events/archive/220215_2829.html</p> <p>【市役所混雑状況可視化サイト】 https://view.animado.net/store/NAMCRU</p> <p>【AI 顔認識システムの宮川朝市への増設】 https://amnimo.com/case/takayamashi/</p> <p>【ワークショップ開催 朝日新聞記事】 https://www.asahi.com/articles/ASR1VOCCLR1ROHGB003.html https://twitter.com/asahi_gifu/status/1618845161517350912</p> <p>【飛騨高山散策 WEB マップ】 https://mdg-web.main.jp/takayama/#/main https://mainichi.jp/articles/20221006/ddl/k21/010/161000c https://www.yomiuri.co.jp/local/gifu/news/20221005-0YTNT50119/</p> <p>【冬のDigi 田甲子園 ベスト8 (審査員評価1位) 受賞】 https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digitaldenen/koshien_winter/index.html https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digitaldenen/koshien_winter/0030.html https://www.sankei.com/pressrelease/prtimes/QZRMQXVGG500PCEVUB6AECC7AY/</p>
地域情報化に関する実績	これまでの経験業務・研究活動	<p>情報システム担当職員数が少ないからこそ費用対効果が大きく表れる先端技術を積極的に採用し、商工、福祉、広報、選挙、防災、広告代理店など9つの部署の経験を活かしながら、現場目線を大切にした課題解決や市民サービス向上に邁進してきました。</p>

	<p>庁内の情報システムの保守や活用には、平成 24 年 4 月に総務課に配属されて以来 10 年にわたり携わっています。平成 26 年の基幹系、内部情報系システムの更新にあたっては、周辺自治体と共同調達の協定の締結により安価な導入を実現しました。その後も庁内の通常業務の合理化に留まらず、市民の安全安心のための災害対応への ICT 活用（スマホで現地から手軽に中継できる映像配信システムやドローン映像中継システム、GIS による災害情報集約など）にも尽力してきました。</p> <p>専門的な外部ノウハウの活用によりさらなる行政サービスの向上を目指すため「ICT を活用したまちづくりに係る産官学連携協定」を締結し、観光客の AI 人流量計測や未来予測、デジタルサイネージ活用などに取り組むほか、全国的に注目される電子地域通貨「さるぼぼコイン」の高山市における活用に向けて関係者と調整を進めました。</p> <p>2018 年 11 月 「夢を育てるみんなの仕事 300」（講談社）に「地方公務員」枠で掲載</p> <p>2019 年 4 月 AI 文字起こしツール導入 文字起こし業務が劇的に効率化</p> <p>2020 年 4 月 RPA、kintone、AI 顔認識システム導入</p> <p>2021 年 3 月 kintone を活用した「おくやみ窓口」を開始 4 月 LoGo フォーム、AI チャットボット導入</p> <p>2022 年 2 月 「フィンテックが生み出す地域のお金の好循環」 政策研究大学院大学セミナーに登壇 電子地域通貨の高山市における活用事例を紹介</p> <p>2022 年 4 月 デジタル田園都市国家構想推進交付金制度（TYPE1）で 2 事業が採択</p> <p>2023 年 3 月 デジタル田園都市国家構想推進交付金制度（TYPE1）で 2 事業が採択</p>
<p>これまでに 関与した地 域情報化に 関するプロ ジェクト</p>	<p>【産官学連携協定にもとづく ICT を活用したまちづくり】</p> <p>コロナ禍以前は年間 400 万人を超える観光客が訪れていた高山市において、古い町並エリア周辺への回遊性を高める観光施策が望まれるなか、まずは現状を知るために AI 顔認識システムの実証実験（無償トライアル）を始めました。</p> <p>一定の効果が認められたため次年度にシステムを本格導入し、産官学連携協定を締結のうえ、三者の強みを活かしてデータの分析や活用に本格的に取り組み始めました。</p> <p>令和 3 年 11 月に開催したデータ利活用をテーマとしたワークショップでは、客観的データに基づく分析結果により、地元商店でも気づいていなかった事実が判明したり、今後の事業の方向性を検討する上で大変参考となる意見交換を行うことができるなど意義深いものとなりました。</p> <p>連携協定を進めることにより、AI による観光客の入込予測を実現させ、商店の効率的な仕入れや観光客の混雑の自発的回避による周遊観光の促進、回遊性や滞在の満足度の向上などを目指しています。</p> <p>2019 年 10 月 宮川の人道橋施工前に顔認識システムで人流量を計測する実証実験</p> <p>2020 年 4 月 AI 顔認識システムの本格導入により市内 2 箇所で人流量（年齢、性別、通行方向、通行時刻）の計測を開始 7 月 人道橋竣工</p>

	<p>10月 ICTを活用したまちづくりに係る産官学連携協定を締結 (NECソリューションイノベータ株、名古屋大学、高山市) 人道橋竣工後の人流量計測</p> <p>2021年 3月 市民課混雑状況の可視化 (AIによる滞在人数の可視化とFIWARE活用)</p> <p>4月 名大と小型AIカメラ (8箇所9台)を市内中心商店街等に設置、計測開始</p> <p>9月 市営駐車場でAI車両ナンバー読取システムの実証実験</p> <p>11月 ①商店街振興組合や町並保存会など地元関係者とデータ利活用に関するワークショップを開催し意見交換 ②駅デジタルサイネージでAI顔認識システムを応用した「おすすめ観光コンテンツ提案」実証実験 ③高齢者向けデジタルなんでも相談会を名大生講師で開催</p> <p>2022年 4月 まちのにぎわい交流施設「大政」にAI顔認識システム増設 人流量計測開始</p> <p>7月 宮川朝市、JR高山駅改札口付近の2カ所にAI顔認識システム増設人流量計測開始 (期間限定実証実験)</p> <p>7月 高齢者向けデジタルなんでも相談会を名大生講師で開催</p> <p>10月 商店街振興組合や町並保存会など地元関係者とデータ利活用に関するワークショップを開催し意見交換</p> <p>2023年 3月 一連の取組みが冬のDigi田甲子園でベスト8 (審査員評価1位)受賞</p> <p>2023年 4月 一般財団法人 世界遺産白川郷合掌造り保存財団へ転職後、AIを活用しての混雑状況可視化や、マナー啓発などデジタルを活用した課題解決に向けて名古屋大学とともに研究中</p>
--	--